

JIS 改正の方針について

印刷標準字体に対応した JIS 改正の方針について、自分なりにまとめてみました。

ぜひ、オリジナルの「JCS 調査研究委員会 成果報告書」(日本規格協会 2002 年 3 月)にも、あたってみてください。

「JCS 調査研究委員会 成果報告書」(以下「JCS 報告書」)では、以下の規格が検討の対象とされました。

JIS X 0208 : 1997

JIS X 0212 : 1990 (いわゆる「補助漢字」)

JIS X 0213 : 2000

JIS X 0221-1 : 2001 (Unicode3.0 とほぼ同じ ISO 10646-1 : 2000 の JIS 版)

その中で、JIS X 0213 : 2000 のみが、のちに改正の対象とされました。

これは、JIS X 0213 追補 1 : 2004 として規格化されました。

JIS X 0213 は、第一・第二水準を含んだ規格ですが、一方、第一・第二水準として親しまれてきた JIS X 0208 は、改正されませんでした。

そのため、同じ第一・第二水準の漢字でも、JIS X 0213 と JIS X 0208 とでは例示字形が異なるケースが生じました。

フォントのほとんどが、JIS 例示字形に沿っているのが現状ですから、どちらに沿ったものであるかによって、同じ漢字が、文字化けする可能性が指摘されています。

その他の問題については、別項にまとめましたので、そちらもご覧ください。

[印刷標準字体を使う前に](#)

「JCS 報告書」では、表外漢字字体表にある漢字を、9 項目に分類し、対応策を示しています。

以下、この分類に即して、まとめていこうと思います。

(1) 検討すべき問題のないもの

- ・例示字形を変更しない。

「JCS 報告書」では、815 字については、例示字形を変更しないとしています。〈注 1〉

(2) 対応が紛らわしいもの

- ・例示字形を変更しない 815 字のうち、4 字が対応が紛らわしいものとして取り上げられています。

(3) 同一字体での微細なデザイン差が存在するもの

- ・39 字は、例示字形を変更する。(印刷標準字体 38 字、簡易慣用字体 1 字)

杓、灼、豹、(芦) を除けば、ほとんどが、筆押さえの有無や、接触の位置 (久の 3 画目の位置など) 等です。

非常に微妙なものもあり、靄、甕、蟹、棘、膏、崇は、違いがよく分かりませんでした。

ただし、灸、叅、橙の接触の位置は、フォントによって違いがあるようです。

また、筵、臄、咬、梗、斧などの筆押さえは、フォントによってもともと無いものもあります。

屢だけは、第三水準の漢字を用いた上で、さらに字形変更します。

(4) デザイン差として印刷標準字体に明記された字形が、JIS X 0221 (いわゆる Unicode) に別字として存在するもの

- ・例示字形は変更しない。(印刷標準字体 7 字、個別デザイン差 8 字形)
- ・ただし、臄は第三水準を用いる。
- ・また、靱は筆押さえを取る。

(靱は、(3) の 39 字には含まれていません)

(5) 例示字形が印刷標準字体と字形が異なるもの

- ・例示字形を変更する。(印刷標準字体 100 字)

(6) 三部首許容にかかわるもの

- ・しんにゆう、しめすへん、しよくへんについて、表外漢字字体表では許容とされているが、例示字形を変更する。(印刷標準字体 28 字)

(禱も三部首許容に関わりますが、(8) に含めています)

(7) 例示字形を変更すると、JIS X 0221 (いわゆる Unicode) を変更しなければならなくなるもの

- ・互換漢字として追加する。(印刷標準字体 10 字) <注 2>

(JIS X 0213 追補 1 では、UCS 互換漢字として第三水準に追加されました)

(8) 78JIS 互換漢字といわれるもの

- ・第三水準に含まれているので、そちらを用いる。(印刷標準字体 28 字) <注 3>

(78JIS 互換漢字は、29 字ありますが、屢は (3) に含まれています)

(9) 第一・第二水準に含まれないもの

- ・第三水準に含まれているので、そちらを用いる。(印刷標準字体 1 字、簡易慣用字体 1 字)

<注1>

(3)～(9)以外のものが815字ということのようです。

(印刷標準字体810字、簡易慣用字体5字)

(3)～(9)の表の中には、字形変更しないものがありますが、これらは(1)の数に含まれません。ただし、参考のために掲げられた(3)の蘆、(9)の濾は(1)の数に含まれます。

JIS改訂の方針を、変更結果別にまとめましたので、そちらもご覧下さい。

[印刷標準字体とJIS X 0213 改正 JCS 報告書 \(3\)～\(9\) 変更結果別](#)

(1)の一覧はこちらにまとめました。

[印刷標準字体とJIS 参照文字 JCS 報告書 \(1\) \(全文字\)](#)

なお、「JCS 活動報告書」附属資料2「表外漢字字体表のJIS・UCS 同定表」の0411は0411dの、0411dは0411の誤りと思われれます。

<注2>

印刷標準字体10字の比較検討として、簡易慣用字体が3字掲げられています。簡易慣用字体は字形変更しません。

<注3>

印刷標準字体28字に対応する簡易慣用字体が12字あります。簡易慣用字体は字形変更しません。